

# みたけの里づくり協議会

所在地：兵庫県丹波篠山市  
代表：山内一郎

- 丹波篠山市畑地区の10集落で構成された住民主体の協議会。
- サルによる被害が顕著であったことから、県や市役所等の行政機関と連携して、柵の設置や維持管理、追い払い、環境整備、放任果樹対策など多様な対策を実施。近年は、シカ・イノシシ被害対策にも地域一体となって取り組む。
- 地域内外の大学・高校・NPO法人等とも連携し、獣害対策×交流×学びを組み合わせ、多様な人材とともに、地域活性化を目指す「獣がい対策」を推進。
- 集落間及び関係機関・団体との連携を促進するため、複数集落を束ねる調整役として「獣がい対策支援員」を配置。

## 【主な取組】

### ○ 放任果樹対策

サルの出没を防ぐため、柿の収穫イベント「さる×はた合戦」を開催し、地域外人材の協力の下、早期収穫を実施。高齢化で不足する作業力を補完するとともに、地域交流を重視した“楽しく継続できる場”として、関係人口創出のきっかけとしている。併せて、市内の高校との連携により、収穫した柿を活用した加工品の開発・販売を実施。

### ○ サルの追い払い活動

専門家の支援の下、地域で効果的な追い払いをするための学習会等を開催するとともに、サル位置情報共有システムを活用し、住民主体の追い払いを効率化。

さらに、各集落から1-2名の隊員を選抜して「みたけサル追い払い隊」を結成し、位置を把握しながら行う機動的な追い払いと、メッセージアプリによる集落間での情報共有により、実効性の高い運用体制を構築。

### ○ 集落柵の維持管理

「さく×はた合戦」と称して、シカ・イノシシ対策の金網柵（集落柵）の点検日を合わせて集落間共同で実施。地域外人材の参加や、他集落の柵点検・補修の工夫を互いに学び合い、情報共有や意識喚起を図ることで、集落柵の効果向上。

### ○ 集落主体の捕獲活動

シカ・イノシシの対策として、ICT大型捕獲檻を用いて捕獲における餌付け方法や野生動物の行動等を「見える化」することで住民の捕獲技術・意欲を向上。有害捕獲にあたる実施隊員数に限りがある中、集落が捕獲者と連携することで、設置・稼働できる箱わな数を増やし、捕獲数増加と効率的な被害軽減を実現。



さる×はた合戦の様子



さく×はた合戦の様子



みたけサル追い払い隊

## 【活動の成果】

農作物被害金額（畑地区） 1,732千円（H28） → 33千円（R6）